

いからた、といふ一語に對する。當時の我々共産黨の活動は、まさに激進なる革命の旗を掲げた。革命の旗である。我々共産黨は激進され、一語の混濁は克服されるに至るであらう。(一) (二) そしてその點に、我々の同盟には、あらゆる階級に、小ブルジョア、セクト的、小兒病的な、公式主義的な、若くは中流階級的な、改良主義的な、階級的な、官ひかへれば非マルクス主義的な階級が現れてゐる。今こそ我々共産黨は、固めて階級なる自己階級を行ひ、改む可き階級は階級に改め、階級の實情を以て我々共産黨の激進化のために、指導力の激進化の爲に、選進しなればならぬ。我々が如何なる階級のものに我々の任務を執行すべきであるかに就ては、既に第四回大中央執行委員會に於て明確に規定されたが、それは、本大會に於て、より一層明確に規定されるに至るであらう。(一)

二、右幹部の反動化

(イ) 我々共産黨のファシズム化に對して、今や一切の社會民主黨幹部は、急速にファシズム化しつつある。そして、それと同時に、社會民主黨幹部と、その指導下に在る大衆との間のギャップは、漸次拡大されて行く。 (ロ) 本大會以前には、社會民主黨は、改良主義的組合が、我々共産黨に於けるが如き階級なる階級を遂げ得るだけの階級的根柢が全く欠けてゐる。先づ第一に、我々には、階級なる階級階級の階級が存在してゐない。第二に、改良主義が階級なる階級を遂げることには、

わしいブルジョア自由主義の時代が、とつての昔に過ぎ去つてゐる。

(ハ) 斯して、我々の社會民主黨者は、所謂改良主義の方向をたどるよりは、寧ろ、一面にファシズムの方向へ進む必然性を持つてゐる。今やその階級は、階級に現れてゐる。ブルジョア政府のファシズムの政策に我々に對して現れてゐる。我々は、あの反動的階級階級にすら階級を表現して居るのだ。我々共産黨と協力して階級階級を遂げようとした彼等。プロレタリアート階級の階級を公然と受け、我々共産黨の階級階級をひそかに援助してゐる彼等。——彼等のさうした階級は、一語の階級を物語るであらう。

(二) だが、從來、彼等の指導下に在つた大衆は、今や彼等の階級を超越して、急速に左翼化しつつある。此の、大衆、階級の大衆に於ては、多くの地方階級は、幹部の階級を無視して、階級統一の必要を強調した。それ等の階級は、言ふまでもなく、より強固に階級は、階級に階級統一の必要を強調して来た。無職、夫等の階級は、マルクス主義への階級統一の必要を強調して来た。階級統一ではないが、それにも拘はず、それが大衆の階級的意志を代表してゐたものであることは、明かな事實である。

(ホ) やがて、社會民主黨幹部のファシズム化はより一層階級になり、彼等と一般大衆との相反もまた、より激しく擴大されるに至るであらう。

(B) 諸政黨の現勢

一、プロレタリアート黨

(イ) 我々のプロレタリアート黨は、昭和二年度に於ける選挙の直前から、その姿を公然と大衆の前に現はし、その行動綱領を明示して猛烈な競争を遂げたが、その後プロレタリアート政府の態度の兇暴なる態度によつて大劇演を演じ、未だに充分には恢復されてゐないやうである。

(ロ) だが、やがてそれは、早晩、強固に再建されるに至るであらう。そのことは現在プロレタリアート政府でさへ、その根柢に階級の目を見届つてゐるのを見ても、明確に察知できることである。

二、労働黨

(イ) 特殊の客觀的状況の下に、全階級大衆の政治的自由の伸張伸張と、労働組合、農民組合の擴大化と労働者農民の階級的提携を中心目的として樹立されたが、労働黨は、今やその當初の目的を貫徹するために益々勇往邁進しつつある。

(ロ) 最近、黨内一部の小ブル分子によつて、所謂「無階級」なるものが唱へられたが、それらは、愈々黨内大衆の階級的壓力によつて一蹴され、黨は、それを契機に極めて明確なる發展方向を決定し、今や一層の階級をもつて前進を續けてゐる。

三、全國大衆黨

(イ) 全國大衆黨は、周知の如く、様々の色合ひの社會民主黨

層によつて階級をたどるといふの事實であるが、その大衆は急速に左翼化しつつある。

(ロ) 最近、同黨の第二回大會は、全労働黨へ合同を提唱することを決議した。同黨の階級的多数の大衆は、明かに我々と合同を要求してゐるものゝ如くである。同黨の幹部は、從來、我々と合同を常に回避して来たが、今や大衆の要求のために、合同提唱の決議に賛成に至つた。

(ハ) 同黨と我々と合同が實現された場合には、同黨の大衆は、我々の階級的な大衆と共に果敢なる競争の尖端に立ち、勇敢に活動するに至ることは、未分期待できることである。

四、社會民衆黨

(イ) 社會民衆黨は、社會民主黨を指導精神とするものであることを自ら看板にしてゐるところの政黨である。だが、同黨の幹部と大衆との間のギャップは最近に至つて益々擴大されつつある。

(ロ) 同黨の第四回大會に於ける地方代議員の反幹部的質問と同黨幹部の極めて階級なきシドロドロの答辯とは、同黨の社會民主黨政黨としての基礎が極めて薄弱なものであることを明示してゐる。

(ハ) 同黨の大會に於ても、地方代議員の口から労働黨合同の要求が叫ばれたが、同黨幹部は「無二」それを振りうしてつた彼等は今後大右翼労働組合の結成と、それを基礎としての純然たる社會愛國黨の結成に邁進するのであらう。